

コミュニティ・スクール情報

2022. 11. 28

第3回 おらほの学校づくり運営協議会 議事録



令和4年11月15日(火)

11:30～14:30

東郷小学校 会議室

◇授業参観 11:30～12:00

1年生 学級活動 縄跳び

2年生 算数 倍を図に表すもとめ方を説明しよう

3年生 国語 気持ちを伝える話し方、聞き方

4年生 算数 数の求め方を工夫して1つの式に表してみよう

5年生 社会 食料生産とくらし

6年生 算数 画用紙300枚を全部数えないで用意する方法

◇給食試食 12:10～12:50

◇協議会 13:00～14:30

1. 学校運営状況の説明 (海藤 陽子 校長)

○児童数の変化 2年生と5年生に転入があり全校生徒129名となった。

○職員で病気休暇や新型コロナによる濃厚接触者で欠けることがあるが、なんとか校内でやりくりしている。児童は落ち着いて生活している。

○学力面で、学力テスト結果からみると、知能偏差値51.4に対し、教科偏差値52.7と知能から期待される以上の学力は維持している。オーバーアチーバー(知能水準から期待される力よりはるかに高い学業成績を示す人)の比率が高く、子どもたちはよく頑張っている。

○課題として、高学年の算数・理科の成績が思わしくない。学習後の定着を図るための工夫が必要であると同時に、上位層の掘り起こしに努めたい。

○「魅力ある学校づくり事業」に関わる子どものアンケート結果をみると、多くの児童が、学校に楽しく通い、主体的に授業に取り組んでいる。町全体での課題でもあるが、「自分にはよいところがある。」という項目が相対的に子どもの意識が低い。「先生は、あなたのよいところを認めてくれる。」の比率は高いので、「よいところを褒めれば自己肯定感があがる」というものではない。自分の力で何かを達成する機会をつくっていききたい。また、ふり返りを大事にし、自分の成長・向上を自覚できるようにしていきたい。東郷祭のあとの表情から達成感を感じた。

○アフターコロナ、ウィズコロナの学校経営に関わって、コロナ禍で中止を余儀なくした行事がある。その間にも職員の異動が行われており、行事を経験したことのない職員も増えている。そのため、以前行っていた行事でも新に立ち上げるぐらいの労力を必要としている。あわせて、新指導要領の本格実施やGIGAスクール構想の導入、外国語の教科化・プログラミング教育など、多くの課題に対応することとなり職員の仕事も煩雑化の傾向にある。職員の働き方改革を推進しつつ、学校行事においては、「やるか・やらないか」の一元的な議論ではなく、「どのようにしたら持続可能な方法でやれるか」という視点も加味しつつ、行事の持ち方を検討していきたい。

○インクルーシブ教育の推進に関わり、特別支援学級在籍児童が11名。通常学級に在籍していても配慮の必要な児童もいる。個別に寄り添う指導と、集団の中で関わりながら成長を促す指導の両立を実現していきたい。教職員も、129名全員の担任という意識で、誰でもどの子にも関わられるよう努めている。来校する保護者や地域の先生からも配慮しつつも通常学級児童と同じように接していただきたい。

○防災教育の推進をかね、避難訓練に加え、年間3～4回の「防災朝会」を実施。外部講師等を活用しながら、命を守る方法を学ぶ場を設定している。また、子どもたちの考えを反映し、アイデアを生かした避難訓練を実施することで、防災への意識を高めていきたい。

○学校評価アンケート（保護者・児童）から速報値

- ・学校からのお便りや情報の提供について
- ・ゲームや動画、インターネットなどのメディアについての約束は、保護者の期待値と児童の意識とでずれが生じている。
- ・読書の点でもメディアと同じようなずれがあるようだ。

○プロジェクターで学校行事等を振りかえる。

- ・修学旅行→米沢上山方面。山形県の再発見につながっている。児童の下調べも活きた旅行であった。
- ・5年生の稲刈り→大変よく働いてくれた。地域の方や土地改良区の方の協力をいただいた。
- ・児童企画の縦割り活動→全校かくれんぼ。普段できないことができ楽しむことができた。
- ・全校での持久走（マラソンカード）グラウンド60周をめどに取り組んだ。自己記録更新につながった。
- ・東郷祭→様々な調べ学習と発表が行われた。
- ・地域学習→各学年で実施。地域の協力で成長にあった学習が行われた。

2. 学校運営状況に関わって（委員の方より）

○学校評価の結果から学校の情報発信について感じたことであるが、中学校が細かく情報をメール等で発信している。それと比べて評価が下がったということはないのだろうか。自分としては、学校が十分に情報をしていていると感じている。（中学校の情報発信はありがたいと思っている。）

○新型コロナに関しての情報発信。一頃とは違う受け止め方になっている。

○東郷小学校で情報発信の基準をもって発信してくれればよい。

○子どもの活躍やよい情報は受け取ってありがたい。

○ペーパーでの便りをなくす方向になることも今後考えられる。

○アンケートの集計など SNS だと教員の働き方改革につながる。

○今後、電子化での情報発信と紙ベースでの受け取りの双方になっていくことになる。アプリでの対応になっていくことも考えられる。

○学校行事での立ち上げるほどの労力。今年度の相撲大会でよく感じた。持続できるようなやり方で対応してくれたことに感謝。

○学校目標に関わって、時間のかかることではあるが成果を認め確認しながら継続的指導を続けてほしい。

○持久走の取り組み。自分への挑戦ということでもよい。コロナ禍で外遊びが減るなかよい取り組み。

○中高一貫校の設立に関わって、情報は学校にもはいついていない。中高一貫校のメリット・デメリットなどまた、どのような教育をめざしているのか知りたいことは多い。また、一貫校の開校にともなって三川中や小学校への影響など知りたい。三川中の校長先生に一貫校の情報を聞く機会があってもよい。



3. 「子どものスポーツ・文化活動の素地をどう育てるか」 についての話し合い

●（統括）これまでの話し合いにおける状況を報告。町として部活動の受け皿になる組織について働きかけられていることの説明があった。

○中学校から部活動を切り離すことで、子どもの体力的な発達など心配される。

○受け皿となる新たな組織の進み具合について、体協や総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団の理解が進まない状況があるようだが大丈夫なのか。

○中学校の部活を総合型スポーツクラブの中に組み込む方向がベストではある。

○各団体ともこれまでのやり方で進めてきた経緯もあり、負担とならない運営ができることをよく説明することが大切。

- 新組織のことが優先しているが、子どもの素地をどう育てるかの観点での検討が必要。小学校の低学年からスポーツや文化活動にふれる機会をつくること。スポーツ面でいうと、1年生や3年生までのあいだに各スポーツ少年団活動を行き来できるような体制をつくり、将来的に競技スポーツへ向かわせる方向づくりがすそ野を広げることになると考える。
- 保護者や児童向けに活動機会の情報発信等ができればよい。
- 保護者に現状のアンケートをとり、どのように考えているのかを知ることよい。